

会派代表質問

会派とは 議会内に結成された、同じ政策を持つ議員の集団をいう。佐渡市

議会では、公党は2人以上、無所属は5人以上で構成しなければならない。

代表質問とは 毎年3月定例会において、市長の施政方針演説及び予算に対し、各会派から1人が代表して質問することができる。質問の制限時間は3

人以上内会派は15分、5人以上内会派は20分、6人以上会派は30分となっている。

新生クラブ



志和 正敏 議員

問 行政評価制度の導入について具体的に説明されたい。

答 「事務事業評価」と「施策評価」を段階的に取り組んで、職員の意識改革とともに実効性と評価の質を高める努力を積み重ねていく。まず、すべての予算事業を評価対象とする「事務事業評価」の試行から始めて本格導入に移行し、続いて「施策評価」にステップアップする行程を3年間で進めて、評価の定着を図り最終的には「政策評価」の段階にまでたどり着くことを目標にしている。

問 安全・安心のまちづくりの中で、特に災害対策への取り組みについて問う。

答 市民への情報伝達の重要性から、同報系の防災行政無線を整備して、市内全域に屋外拡声装置を設置する。災害発生時における住民避難及び各機関との連携確認を行うために防災訓練の実施地域での自主防災組織の育成に努める。

問 子育て支援の充実が必要であると考えらるが。

答 4月から保育時間の延長、乳児保育の拡大、一時保育の実施、学童保育の増設充実、ファミリーサポートセンターの設立等、子育てがしやすい環境整備に努める。

問 第1次産業の具体的な振興策は。

答 小規模農家等で構成する集落営農の組織化等を含めた担い手育成等の体制整備を図っていききたい。

三・一クラブ



田中 文夫 議員

問 昨日、高野市政3年目の「施政方針」を聞かせてもらった。「豊かな自然、薫り高い文化、活気あふれる新しい島づくり」をキャッチ・フレーズに掲げて新市建設に取り組んできた市政にかげりが見えてきたと感じたのは私だけか。いわゆる先行き不安ではなく、徐々に確実に没落の兆しが現れてきたということだ。その象徴が、人口の減少。「少子・高齢・過疎の島」。これがかげり・兆しの正体。そして、佐渡市の実態でもある。

4月中には、高野市政の責任のもとに改訂版「新市建設計画」が策定されること。リアルで実行可能な具体策を提示いただきたいものである。当然、「少子・高齢・過疎の島」の生き残り戦略であろうと覚悟している。

さて、その段でいくと、18年度の「施政方針」と予算案は正に高野版新市建設計画の実施初年度と目される。どのような具体策と実施体制と予算繰りのもとにサバイバル戦に臨もうとしているのか聞きたい。

予算編成における枠配当方式とは何か。また、主要施策を9から6に絞った理由は何か。

答 新しく踏み出した方式のため、一般財源については20%カット、うち經常費について枠配当ということで、完全に主要施策の重要度・優先度に応じての枠配当にはなっていない。

主要施策は、ビジョン実行可能性による組替えというよりは、項目の整理をし、分りやすくしたにとどまっている。

これからは生きたお金の使い方を政策中心に枠配当していききたい。